

オトナのための日本語塾

レポート集 2017

武庫川女子大学言語文化研究所 編

まえがき

この冊子は、武庫川女子大学言語文化研究所による「オトナのための日本語塾」（以下、日本語塾）に参加された“塾生”によるレポート集です。日本語塾は、日本語に関心のある人なら誰でも参加できる勉強会です。今年度は、5回開かれました。毎年、レポート集を出していますが、今回のものは第3号になります。

第3号では、最後の5回目まで参加した参加者全員がレポートを提出されました。“塾長”としては大変ありがたく、うれしい限りです。

レポートを提出した人の中には、私からは人生の先輩にあたる方がいらっしゃいます。その人は、この会に出席することを、ことのほか楽しみにし、かつ、喜んでくださっています。ただ、「レポートは書けない」とおっしゃっていました。そこで、「無理せず書いてみてください」と言っていたら、最後にはきちんと提出してくださいました。

また、同じように、もう一人「書けない」とレポート執筆を拒否されていた方がいらっしゃいました。この人には「好きなことでいいのです。日本語がかかわらない事柄はないから」と説得しました。すると、好きな世界を対象としたレポートを書かれました。その結果、おそらく、好きな世界を一層好きになられただろうと想像しています。

一方、3年連続してレポートを提出して下さっている方もいます。この人は、毎回、実際になさっている仕事とかかわりのあることをテーマに選ばれているようです。完全には解決できない、難しいテーマの場合もありますが、ご自身の仕事の場面できっと役立っているものと、私は信じています。

他方、今回、初めて参加された方もいます。本学の卒業生で、当研究所のシンポジウムへの参加をきっかけに、今年度から日本語塾に入られました。レポートらしいレポートは初めてだったそうで、苦労しながらも完成させてくださいました。

もう一人は、この数年来、当研究所主催の活動に毎回のように参加して下さっている方で、3年連続でレポートを提出されています。レポート執筆のために近隣の図書館に足を運ぶこともいとわないという熱心さです。さらに、レポート集をあちらこちらに配って当研究所の広報まで努めて下さっています。ありがたいことです。

このように立場のさまざまな人たちが集まって、一緒に勉強会ができたこと、レポートをきちんと出して下さったことに深く感謝いたします。

塾長 佐竹 秀雄

目 次

まえがき

佐竹 秀雄

レポート

夫が配偶者を嫁と呼ぶこと

高野 啓

3

米朝落語の会話にみる人間関係と感情の動き－「天狗裁き」を資料として－

松田 実保子

7

人物を表す接尾語について

上野 和美

13

「あげる」「～てあげる」

三好 由希子

23

漢字の歎き

竹腰 純

28

夫が配偶者を嫁と呼ぶこと

高野 啓

1. はじめに

パソコンのあるサイトで「嫁がご飯を作ってくれない」という書き込みがありました。それを読んだ私は、てっきり舅か姑が、同居する「息子の妻」がご飯を作ってくれないという悩みを書いていると思ったのですが、読み進めていくとそれは「自分の妻」がご飯を作らないという悩みだったのです。

また、最近テレビで若手の芸人が自分の配偶者を「うちの嫁が・・・」と話すことについても、なぜ夫が自分の配偶者を嫁と呼ぶのかと、違和感を持ちました。

その違和感はどこから来るのか、また多くの人はそのことをどう感じているのかという疑問が湧いてきました。この疑問を解くことを通して、私自身の気持ちや考えを整理して分析したいと考えました。

2. 辞書における「嫁」

まず、辞書を使って、嫁とはどういう意味なのかを調べてみました。

『デイリーコンサイス国語辞典』では

- ①むすこの妻
- ②むすこの妻として家の籍に入った女性.*昔の家制度に基づく言い方。
- ③結婚相手の女性。

という説明がありました。また、『広辞苑』によれば

- ①息子の妻。
- ②結婚したばかりの女。新婦。
- ③結婚の相手としての女。嫁した女。妻。

と説明されていました。『明鏡国語辞典』によれば、

- ①息子の妻となる女性。また、息子の妻としてその家族の一員となった女性。「長男の嫁」「嫁に行く」
- ②他人の妻をいう語。「彼の嫁さんはしっかり者だ」
- ③〔俗〕自分の妻をいう語。「嫁と僕と娘の3人で出かけた」*西日本の方言から。

とありました。

語義を調べる限り、嫁はどの辞書にも『息子の妻』ということが第一義に書かれています。ただし、『明鏡国語辞典』には、俗語扱いとして自分の妻を指すというのが出てきました。また、それは「西日本の方言から」とある点も気になりました。

しかし、そうであったとしても、妻を「僕の嫁」という表現に、私が違和感を覚えるのもあながち見当違いではないと思います。

3. ネットの書き込みによる調査

一般の人たちがどのように思っているのかを、パソコンの書き込みから調べてみました。その結果、次の4件を見つけることができました。

(1) 2011年「嫁という表現の好き嫌い」

2011年に、嫁という表現の好き嫌いを問う書き込みがありました。「自分は既婚男性であるが、配偶者を「嫁」という人に違和感があるが女性はどう思うか」というものです。それに対して9通の回答があり、7通が嫌だ、2通が構わないという結果でした。

嫌な理由として、次の2点が挙げられていました。

- ・上から目線であり外で虚勢を張りたいように感じる。
- ・夫の家からすると「嫁」ではあるが夫の「嫁」ではない。

他方、嫌ではないという回答については、次のように述べられていました。

- ・関西人なので当たり前であり言葉の成り立ちまでは考えない。
- ・妻と呼ばれるより「嫁」のほうが好き。(理由は書いていない)

9人という小人数ではありますが、この時点では夫に嫁といわれるのが嫌な女性のほうが多いものでした。

(2) 2015年「嫁という言い方は好きか」アンケート

2015年には、「嫁という言い方は好きですか」というアンケートがありました。その結果は、次の通りでした。

- ・好き 10.1%
- ・嫌い 29.7%
- ・どちらでもない 60.1%

*好きという理由

- ・結婚したという実感（結婚できたうれしさ）がある。
- ・嫁というと若い印象がある。

*嫌いという理由

- ・下品な感じがする。
- ・本来嫁という言葉は家に対してのものであり夫が言うのは用法がおかしいし偉そうに感じる。

*どちらでもいいという人の理由

- ・言い方はその人をどう思って使っているかによる（意味は関係ない）。

このアンケートの場合、「嫌い」は30%未満ですから、「嫁」という言い方に抵抗を感じない人が70%を超えているということになります。

(3) 2016年「嫁という現象増加の理由」

2016年のサイトで、最近自分の妻を嫁という現象が増えているのはなぜ（是非を問うも

のではない) というものが見られました。

『関東では「うちのやつ」「かみさん」「うちの妻」が多いがこの10年くらい「嫁」が若い人たちが増えてきたように思う、90年代に東京進出してきた吉本の影響か?』というものです。それに対する意見として。

- ・家では親も自分の妻を「嫁」と呼んでいる、普通のこと。しかし身近な東京人は「女房」と言っている。
- ・男性が女性より優位に立てない時代であるがゆえに「嫁」と呼ぶことで家父長制度の威厳を取り戻すため。
- ・テレビでの関西芸人の影響が大きい。
- ・「妻」は固い感じがして「嫁」のほうが若い人には馴染みやすい。
- ・「嫁」はかわいい感じ、「妻」は夫と対等な感じで可愛くない。
- ・言葉の意味を考えない人が増えたので使いやすいことばは「嫁」。
- ・「妻」と「嫁」の使い分けができず「嫁」を使う人が増えた。

このように好き嫌いを問うものでなくても、「自分の妻」を「嫁」と呼ぶことが増えてきたことを意識する人の書き込みも見られました。

(4) 2017年「嫁の当て字」

2017年7月4日、テレビ番組に対するコメントとして、次のような書き込みが見られました。

- ・今やってる「この差って何ですか?」という番組で、妻や奥さん、女房等々それぞれの違いを説明されてるよ～嫁は良い女(め)→よめらしい。

ここでは嫁を良(よ)女(め)という当て字まで出てきています。

以上から、年々「自分の妻」を「嫁」と呼ぶことの抵抗感は薄れているようです。そして、それ以上に、「嫁」を可愛いイメージにとらえるという意見も見受けられます。

4. おわりに

以上の調査結果を踏まえて、なぜ私自身、男性が配偶者を「嫁」と呼ぶのが気にかかるのかを考えてみました。

1945年生まれの私としては、「嫁」はあくまで舅姑や婚家を抜きにしては考えられないものです。可愛い存在などというのではなく、両親のもとを離れて相手の家族になるという覚悟を必要とするものでした。

1947年に家制度は廃止されたとはいえ、明治、大正生まれが親の世代の人々は、自分の親世代と同様に、嫁は婚家のものと考え、嫁が舅姑を看取るということは当たり前と認識していたように思います。女性は夫との生活がどんなに平穏無事なものであっても、一旦婚家に何事かが生じれば馳せ参じるという思いは常にもっていました。そして、舅姑を見送って初めて責任を果たしたと肩の荷を下ろしたものでした。

それだけに、私は、息子の配偶者には「嫁」の役割は担わせたくないという思いが強いのです。周りの知人、友人（50代後半から70代）に聞いてみても、自分は夫の親の世話をする（または、している）が、自分自身の場合は、子供にできるなら迷惑をかけないように、自立できるよう心掛けているという人がほとんどです。

嫁の務めは果たすが見返りは求めない世代は、気軽に「妻」のことを「嫁」と呼ぶことに抵抗を感じているのです。

一方、周りの若い女性（20代から40代）に尋ねてみると、嫁と呼ばれたいという人も多くなりました。彼女たちにとって、「嫁」という言葉は、漢字の「嫁」ではなくカタカナの「ヨメ」で、軽やかで幸せなイメージがあるのでしょうか。その屈託のなさは、単に関西芸人の影響というのだけではないと思います。その言葉が広く受け入れられる背景は、家という制度が廃止されたことが、当然のこととして行き渡ってきた成果でもあるのかもしれませんが。

頑なに嫁という言葉にこだわる気持ちが私の中で薄れてきた、という思いが最近強くなってきました。それは無事自分のすべき役割を果たしてきて、片意地を張って過ごす必要がなくなったことから来るのかもしれませんが。

「嫁」という言葉に対する意識を調べているうちに、「嫁」は気にならないけれど「家内」という言葉には違和感があるという声を、働いている女性幾人かから耳にしました。結婚したらまず家庭に入るといった私には意外なものでした。夫が外で働いて、妻は家事をすることで夫をサポートしていくのは当然であり誇りでもあり、仕事をするとしても家事と両立できるような働き方を考えていました。

しかし、1985年男女雇用機会均等法が成立して30年以上経った今、結婚している女性でも能力のある人物ならば性別に関係なく、持てる力を裏方ではなく表舞台で発揮できる環境が整いつつあります。そこで働く女性にとっては家にいるのが当然というような「家内」という言葉には抵抗を感じるのでしょうか。「イクメン」「ワーキングマザー」など時代を反映した言葉も生まれてきました。

時代によって受け止め方の違ってくる言葉を考えることは社会の在り方を考えることでもあります。私が「嫁」という言葉にこだわったように「家内」という言葉にこだわる若い人の存在を頼もしく思っています。

米朝落語の会話にみる人間関係と感情の動き

－「天狗裁き」を資料として－

松 田 実 保 子

1. はじめに

21世紀が始まったころ、私は仕事の都合により東京で生活することになった。初めての一人暮らしである。そのとき、生活必需品とともに引っ越し荷物に入れたのが「米朝落語」のCDであった。

今回取り上げた「天狗裁き」は、そんな東京暮らしを支えてくれた一席である。この噺の内容は次のようなものである。主人公（喜八）が「見た夢の内容を話せ」とせまられるのだが、主人公にとっては「見た覚えのない夢」で、答えようがなくて困ってしまう。すると、そこに助け舟となる人物が現れて、助かったと思ったら、その助け舟のはずの人物に、夢の話をしろとせまられる。すると、また次の助け舟が現れて…、と繰り返されるのである。夢の話を書きたがる相手は、女房（おさき）→ 隣家の男（兄弟分の徳さん）→ 家主（町役の幸兵衛）→ 大阪西町奉行 → 鞍馬山僧正ガ谷の天狗、と順々にグレードアップしていく。

「天狗裁き」では、上述のような内容のために、同じような台詞のやりとりが繰り返される。しかし、同じ意味を表す台詞であっても、相手や発言者の気持ちによって、当然、台詞のありようが異なる。登場人物の人間関係やそのときの心情に合わせて、台詞が微妙に異なるのである。演者は人間関係を瞬時にわからせる会話の工夫をしている。このレポートでは、主人公の言葉を中心にしてその工夫の一端を考察する。

2. 会話の整理

資料として使用したのは、次の3種類である。

A 1972年4月23日（京都府立文化芸術会館）の高座の書き起こし

B 1989年6月13日の高座の書き起こし

C 「上方落語 桂米朝コレクション〈2〉奇想天外」に収録された文字資料

この3種から、まず主人公の台詞を抜き出した。そして、「（夢を）見ていない」という表現、自称（一人称）表現、対称（二人称）表現の3つの観点から、どのような傾向や特徴が見られるかを調べた。

Cの「口上」で、演者である桂米朝が「内容、筋立ては同じながら私なりにいろいろと変えてもみました。十数年かかって一応今の形に落ち着いたのが、ここへ載せたこの速記です。」と述べている。A～Cでは時間的な距離も認められるので、演じられた時期による違いも見てみたいと考えた。

3. 結果

3.1 「見ていない」表現

主人公は「夢の話を言え」とせまる相手に対して、「見ていない」という返事を繰り返す。その「見ていない」を、相手によって言い分けているのかいないのかについて調べた。

表1は、主人公が相手別に行った発話数と、その中で「見ていない」という表現を使った回数を示したものである。

表1 発話数 ()内は「見ていない」表現の数

相手	A	B	C
女房	9 (5)	10 (6)	11 (6)
隣人	8 (3)	10 (4)	11 (4)
家主	7 (1)	7 (4)	7 (4)
奉行	6 (2)	4 (2)	4 (2)
天狗	11 (4)	9 (3)	9 (3)

Aでは、家主が1回だけと少なく、女房と天狗が多くなっている。それに対して、演者本人が一応の完成版だというCでは、「見ていない」という表現が、だんだん少なくなっている傾向にある。

表2は、「見ていない」という表現を、相手によってどのように言い分けているかを見るために、該当部分を取り出したものである。

表2 相手別の「見ていない」表現

相手	A	B	C
女房	夢なんか見てえへん 夢なんか見てえへん、ほんまに見てえへんのだや 夢見てえへんから見てえへんちゅうてんねや 見てえへんさかい見てへんちゅて 見てえへんさかい見てえへんちゅてんねやがな	夢なんか見てへんがな 夢なんかみた覚えはないんやがなあ 見てへんちゅうてんねん 見てへんさかい見てへんちゅうてんねがな 見てへんさかい見てへんちゅうてんねんやがな 見てへんさかい見てへんちゅうてんやないかい	夢なんか見てえへん 夢なんかみた覚えがないで見てえへんのだやがな 夢なんか見た覚えはないさかい、見てえへんちゅうてんのだや 夢なんか見てえへんのだや 見てえへんさかい見てえへんちゅうてるのじゃ

隣人	夢見てへんねや 夢は見てえへんねや 見てへんのやさかい	夢なんか見た覚えはないねん 夢見た覚えはないねや 見てへん夢の話はしゃべり よおがないやろがな 見てへん夢の話はしゃべり よおがないちゅうねん	夢なんか見てえへんねん 夢なんか見た覚えはないのや 夢なんか見てえへんのや 見てえへん夢の話、どないしてするねん
家主	夢見てえしまへんのや	夢なんか見たおぼえはないんで 夢なんかホンマに見てしまへんねん 見てへん話は言いよおがございまへんやろがな 夢なんか見てしまへんで	夢を見た覚えはないんで 夢なんか見てえしまへんのやさかい 見てえしまへんのや、夢は見てえへんのや
奉行	夢も何も見たんやございません 夢なんか見てしまへんので	夢見た覚えはございませんで 見てない話はしゃべりよおがございません	夢なんか見てえしまへんので 夢なんか見てえしまへんので
天狗	見てえへんものは見てえしまへん 夢なんか見た覚えはございません 見たこともない夢の話はでけしまへん 見た覚えのない夢はどない言われてもしゃべられしまへん	夢なんか見てしまへんので 見てないんで、見てない話はしゃべりよおがございません 夢なんか見た覚えはございません	夢なんか見てえしまへん 夢なんか見てえしまへん見た覚えはございません

女房・隣人に対しては、「見てへん」「見てえへん」「見てへんちゅうてんねんやがな」「見た覚えはないのや」など、普段の話し方をしている。家主に対しては「見てえしまへん」「見た覚えはないんで」と少し丁寧な物言いになっている。さらに、奉行・天狗には、「見たんやございません」「見た覚えはございません」など「ございません」を使った丁寧度の高い表現が使われている。

また、同じ相手でも「しつこいねん」という気持ちが入ってくると、表現が変化する。女房に対して、最初は「夢なんか見てえへん」「夢なんか見た覚えはないで」と穏やかに言っ

ているが、最後は「見てえへんさかい見てえへんちゅうてるのじゃ」と怒りを含んだ、強く言い放つ形式の表現になっている。しかし、奉行や天狗に対しては、「夢なんか見てえしまへんの」や「夢なんか見た覚えはございません」など「ません」「ございません」の丁寧体が最後まで保たれている。

時期の異なるものを並べてみると、Aは女房・隣人に対して、ほぼ「見てえへん」で通しており、粗削りな感じがする。Bは女房・隣人・家主に対してAよりも「見ていない」表現が増え、さらに、女房には「見てへんさかい見てへんちゅうてんねん」を、隣人には「見てへん夢の話はしゃべりよおがない」を重ねて使用しており、ややくどい感じになっている。Cは「見ていない」表現の数はBと変わらないが、女房・隣人に対しては少しずつ表現が変化し、感情の動きを鮮明にしている。一方、家主・奉行・天狗に対しては「夢なんか見てえしまへん」を繰り返すことで、上位の者に対してごちゃごちゃ言えず、ともかく勘弁してほしい、という思いがより伝わるように感じる。

3.2 自称（一人称）

主人公が会話の相手によって、自分のことをどのように称しているかを整理したものが次の表3である。

表3 相手別の自称

相手	A	B	C
女房	おら	おら、わい	わしゃ
隣人	わい、わしゃ	わい、わしゃ	わしゃ、わし
家主	わて、わし、わしゃ	わたしゃ	わたい、わたし
奉行	わたし	わて	わたし
天狗	わたし	わて	わたい、わたし、わて

まず、敬意の点から眺めてみると、身近な女房、隣人だけに見られるのが「おら」「わい」であり、他方、家主、奉行、天狗に見られるのが「わたし」「わて」である。その他、「わし」は女房、隣人、家主に使われている。これらのことから、

おら・わい < わし < わたし・わて

という敬意の位置づけがあるように感じられる。実際にはともかく、この噺の世界では、そういう設定であると思われる。

また、家主・奉行・天狗に対しては、冷静な間は「わたし」だが、怒りや恐怖が高まってくると「わたい」「わて」になっている。ここには、感情の動きを自称表現に託していることがわかる。

次に、A・B・C、つまり、演じられた時間軸で眺めると、次のことが認められる。

- ・女房に対して、A、Bでは「おら」「わい」を使っているが、Cでは「わしゃ」になっている。
- ・奉行、天狗に対して、AとBでは異なっているが、CではAに戻る傾向が認められるとともに、天狗に対しては複数の自称が使われている。

Cが米朝落語の一つの到達点と考えると、人間関係の近い人物から遠い人物への変化にあわせて、「わし」→「わたい」→「わたし」と使い分けようとした意図を汲み取ることができる。また、天狗に対しては、主人公の感情に合わせた自称を使い分ける工夫が加えられたと見ることもできよう。

3.3 対称（二人称）

主人公が会話の相手をどのように称しているかを整理したものが次の表4である。

表4 相手別の対称

相手	A	B	C
女房	お前、このがき	—	—
隣人	徳さん、お前、このがき	徳さん、お前	徳さん、お前、このがき
家主	家主さん、あんた、おのれ	家主さん、あんた	家主さん、お家主さん、あなた
奉行	お奉行さん	お奉行さん	お奉行さん
天狗	天狗さん	—	天狗さん

女房・隣人に対しては「お前」や「このがき」が使われ、女房以外は「さん」付けが使われている。

「お前」「このがき」は相手を見下した表現であり、人間関係に合わせた対称の使い方の違いが認められる。ただ、Aでは言い争ううちに家主に対しても「おのれ」と言ってしまう。怒りの気持が大きくなったためである。しかし、Cでは「おのれ」は使わず、「お家主さん」「あなた」とより丁寧な呼びかけを使っている。これは敬意の程度というよりも、「おのれ」では夢の話を聞きたがるアホな家主と同じレベルになってしまっているのに対し、「あなた」と言える冷静さで一段上にいる感じを与える。「家主」クラスはまだ、戦おうと思えば戦える相手だということであろう。

それから、女房以外に「さん」付けである点についてはどう考えるべきだろうか。隣人に対しては「徳さん」と名前を含む「さん」付けで、それ以外は役職などに「さん」を付けている。名前を直接呼ばないことは敬意の表れであるから、この点では人間関係に配慮した使用法と言える。

興味深いのは、身分が高く、主人公は服従するしかない奉行や天狗に対して、「さま」ではなく「さん」を付けていることである。当然、「さん」より「さま」の方が高い敬意

を示すことができる。もし、ここで「さま」を付けていたら、この落語のイメージはどのようになっていただろう。

「さま」を付けられた奉行、天狗は、身分の特別に高い存在として位置づけられる。その特別な存在が、ストーリーの中で、女房や隣人と同じように夢の内容を知りたがることになる。落差は大きくなるが、非日常感も大きくなる。「さん」という呼びかけはどこか親しみを含み、日常の中で起きたとんでもないこと、という印象を強くする。また、奉行、天狗を特別な存在とせず、女房、隣人とたいして違わない存在として位置づけることにより、女房から、隣人、家主、奉行、天狗と少しずつ段階を踏みながら、その底に流れる、どいつもこいつも同じだという連続性を強調したかったのではないか。その共通する連続性こそが、この「天狗裁き」の命だと思われる。

4. おわりに

「この落語家さんが好き」と思うポイントは、「耳になじむ声」に始まり、「心地よいテンポ」「絶妙な間」「品のある物腰」「ふと漂う色気」・・・と続く。これを兼ね備えた人が練り上げた「天狗裁き」を取り上げさせてもらった。

普段は落語を聞いて「あはは」と笑っているだけであったが、今回、主人公の言葉を中心に考察したことで、短く、少ない会話のうちに、立場や関係性といった人物の背景を明確にし、細かな感情の動きも浮かび上がらせる工夫の一端に触れられた気がする。もちろん、主人公の言葉や会話だけでなく、情景の描写や本題に入る前のまくらなどあらゆるところに仕掛け・工夫があり、喜八も徳さんも、果ては人間ではない天狗さんまでも、よく知っているような気になるほど、生き生きとしているのである。

参考資料・文献

- ・「桂米朝 上方落語大全集 第2集」（東芝レコード）に添えられた文字化資料
- ・<http://kamigata.fan.coocan.jp/kamigata/rakugo89.htm>【上方落語メモ第2集】
- ・桂米朝「上方落語 桂米朝コレクション〈2〉奇想天外」（ちくま文庫、2002年）

人物を表す接尾語について

上野 和美

1. はじめに

「建築家」と「楽道家」は、どちらも接尾語「家」が付くが、その意味するものは違う。「建築家」とは「建物の設計や工事の監理を職業とする人」で、「家」はその人の職業の意味で使われている。一方、「楽道家」は、「楽天的な人」であり、「家」は性格・傾向の意味で使われている。同様に「日本人」の「人」が国籍・出自を表すのに対し、「知識人」の「人」は、「持ち場」ともいうべき活動領域を表す。たとえ同じ漢字を使った接尾語であっても、担う意味は異なる。

また、同じ「研究する（一人の）人物」を指す語であっても、「研究家」「研究者」「研究員」では思い浮かぶ像に違いがある。「支配人」と「支配者」に至っては全く違う。さらに、一人の doctor をあるときは「医者」と呼び、あるときは「医師」と呼ぶ。接尾語には単に「～を専らとする人」では済まない使い分けが存在する。

このような人物を表す接尾語は、「家」や「人」をはじめとして「屋」「者」「士」「師」「手」「員」「民」「主」「族」「漢」「公」「方」など日本語には数多くある。山下喜代（2016年）によれば、「〇〇氏」「〇〇ちゃん」のような呼称や「〇〇マン」「〇〇キラー」のような外来語までも含めると107種にのぼるといふ。そして、それらは意味によって属性、役割・立場、待遇、職業、集団、性別・親族に分類できるという。

一般的に「どんな人物か」を述べるとき、「どこの人か」「何の仕事をする人か」「どのような立場にある人か」「どのような性格の人か」「何が上手／好きな人か」など、さまざまな観点で人物を捉える。その観点こそが接尾語の担う意味内容であるといえる。

本レポートでは107あるとされる人物を表す接尾語の中から、日本語学習者がよく目にするが、使い分けが曖昧になりがちな語である〈人-ジン〉・〈人-ニン〉・〈家-カ〉・〈者-シャ〉・〈士-シ〉・〈師-シ〉・〈手-シュ〉・〈員-イン〉の8つを取り上げ、これらの接尾語を持つ語にはどのようなものがあり、それらがどのような意味で使われるのかを調べた。接尾語の意味的な特徴を理解し、日本語学習者への説明に備えるのが目的である。

まずは、どのような語があるのかを見るために、辞書の見出し語や用例などを中心に二字熟語および複合語を拾い出した。使用した辞書は中型国語辞典の『デジタル大辞泉』と小型の『明鏡国語辞典』である。また、拾い出すのは現代の日常生活の中で使われている語、日本語学習者への説明の際に念頭に置いておくとよい語とした。その上で接尾語ごとに意味や使われ方について考察した。

以下、その結果を記述する。接尾語ごとに、あるいは類似の接尾語のセットごとにその特徴を述べるとともに、日本語学習者への指導のポイントについて言及する。また、収集した主な語例を二字熟語と三字以上の複合語に分けて示す。

2. 人〈ジン〉と人〈ニン〉

2.1 特徴

〈ジン〉と〈ニン〉はどちらも音読みだが、〈ジン〉が漢音で、〈ニン〉が呉音である。漢音とは7～9世紀に遣唐使らによって伝えられ、さらにそれが日本風に変化したものといわれる。それに対して呉音は、漢音より前の5～6世紀の江南地方(=呉)の発音が、仏典とともに百済を経て伝わり、日本語式に変わったものとされる。「悪人」や「病人」など、仏教に由来する語や古くからある語——もとは外国語(=中国語)であるという意識が薄いような使われ方をする語——は、多くは〈ニン〉である。たとえば漢数字の一、二を「いち、に」と読むのは呉音で「なん人ですか?」「六人です。」と言った場合の漢字部分は呉音である。

三字以上の複合語の場合、〈ニン〉は「案内」「同居」など行為を表す語に付いて役目や立場を表す。「案内する(役目の)人」「同居する(立場にある)人」である。また、由来が古いために日本語との同化度も高く、「遊び人」「請負人」「勤め人」など和語の後ろに付く語も多い。

一方、〈ジン〉は、「アラブ人」「日本人」のように固有の地名に付いて出身や国籍等を表すのが典型である。他にも「縄文」「現代」などの時代を表す名詞に付いたり、「知識」「社会」のような活動領域を表す名詞に付いたりする。いずれも、そこに属する(=分類される)人を指す。線を引いて区切るようなイメージで、変更が不可能な属性を表す。「西洋人」も「ネアンデルタール人」も一旦そこに分類されると、抜け出すことは困難である。

〈ジン〉は、〈ニン〉より新しい読み方である分、外国語としての要素が残っているといえる。そのために、既存の枠組みで捉えきれないような人物が現れると、〈ジン〉を付けて表現したくなるのではないだろうか。〈ニン〉に比べてネイティブとしての肌感覚の薄い〈ジン〉の方が、新しい概念を示しやすいのではないかと思われる。

2.2 学習者への指導のポイント

学習者には、呉音や漢音の違いを教えたりする必要はない。初級レベルなら、人数(三人以上)を言うときにはいつも〈ニン〉、出身地を言うときにはいつも〈ジン〉を使うと認識できていたら十分であろう。

中上級のレベルなら、三字以上の熟語の場合、「○○(を)する」と言える語に付くときは〈ニン〉、地名や時代名に付くときは〈ジン〉と説明すれば、当座は間に合うと思われる。

2.3 主な語例

【人〈ジン〉】

二字熟語

愛人・偉人・異人・恩人・佳人・歌人・怪人・奇人・客人・巨人・狂人・軍人・故人・個

人・公人・私人・詩人・主人・囚人・新人・成人・聖人・茶人・知人・超人・哲人・俳人・白人・美人・暇人・夫人・婦人・文人・別人・変人・凡人・名人・要人・老人

三字以上の複合語

アラブ[固有の地名]人・異邦人・一般人・宇宙人・欧米人・火星人・外国人・帰化人・業界人・経済人・芸能人・〇〇県人・原始人・現代人・現地人・国際人・財界人・社会人・自由人・趣味人・常識人・縄文人・西洋人・知識人・著名人・読書人・渡来人・日系人・ネアンデルタール人・南蛮人・風流人・文化人・未亡人・民間人・野蛮人・有名人

【人〈ニン〉】

二字熟語

悪人・芸人・罪人・死人・住人・上人・商人・証人・聖人・職人・仙人・善人・他人・町人・当人・女人・本人・売人・犯人・番人・万人・非人・病人・本人・役人・浪人

三字以上の複合語

遊び人・案内人・請負人・受取人・運送人・監査人・管財人・鑑定人・管理人・行商人・苦勞人・けが人・見物人・後見人・公証人・交渉人・告訴人・差出人・参考人・仕掛け人・仕事人・支配人・支払人・使用人・商売人・署名人・世話人・選挙人・相続人・代理人・立会人・張本人・賃借人・通行人・勤め人・同居人・名宛人・仲買人・仲立人・媒酌人・配達人・被告人・貧乏人・弁護士・補佐人・保証人・発起人・名義人・料理人

3. 家〈カ〉

3.1 特徴

〈家-カ〉は社会的に認められた一廉の人物という印象を与える。最初に述べたように「画家」「作家」「建築家」などは職業名を表し、特に芸術活動など自由な立場で仕事ができる人を指す。たとえ活動の成果を世に問うための「産みの苦しみ」を味わっていようとも、職業名としては自由気ままな孤高の人である。

〈家-カ〉は職業以外にも、実務に通じた「実務家」、策略にたけた「策略家」のように、その分野において秀でていることを表す使い方があつた。また、秀でている、というところからさらに「努力家」「愛妻家」「美食家」などの性格や傾向を表すこともある。「資産家」「素封家」などのお金持ちを意味する語は、人物を指すのか、もともとの〈家〉の意味である「家^{いえ}」そのものを指すのかは曖昧である。

いずれにせよ共通しているのは、職業・専門(=得意分野)・性格・家柄という属性が、人から一目置かれるものであるという点である。「策略家」はたとえ尊敬はされなくても、警戒はされる。「野心家」や「夢想家」も蔑むというよりかは、距離をおいて尊重するニュ

アンスが感じられる。否定的な人物評になるのは、それが皮肉として使われる場合だろう。

3.2 学習者への指導のポイント

「作家」「画家」「漫画家」など初級レベルで出合う職業名が多い。まずは職業名として扱うべきである。中級以上の学習者であれば、職業以外の〈家-カ〉もある程度は教えてよいだろう。性格や傾向を表す使い方はむしろ学習者の興味をひくように思われる。

3.3 主な語例

二字熟語

画家・作家・書家・大家・噺家

三字以上の複合語

愛煙家・愛好家・愛妻家・演出家・音楽家・格闘家・革命家・活動家・鑑定家・起業家・脚本家・教育家・金満家・芸術家・研究家・建築家・儉約家・工芸家・好事家・策略家・作詞家・作曲家・資産家・事業家・思想家・実業家・資本家・社交家・写真家・宗教家・柔道家・小説家・政治家・専門家・素封家・探検家・彫刻家・陶芸家・投資家・篤志家・登山家・努力家・発展家・発明家・版画家・美食家・評論家・敏腕家・舞踏家・文筆家・勉強家・冒険家・法律家・漫画家・夢想家・野心家・落語家・楽道家・理想家・理論家

4. 者〈シャ〉

4.1 特徴

〈者-シャ〉は今日、非常によく使われる接尾語の一つで、数も多い。「医」「科学」「技術」など活動領域名に付く語もあるが、おおかたは「読」「入国」「旅行」のような動詞的な語に付く。「忍者」「信者」のように〈ジャ〉と濁るのは古くからある語で、古いが故に日本語の連濁の影響を受けたと思われる。

〈者〉は、ただ今その立場・役割にあるということを表す。それが一時的なものであっても構わない。一回きりの行為として「○○した」人を指すこともある。「作家」は職業だが、「作者」は「書いた人、作った人」を指す。「参加者」「被害者」「目撃者」なども、そのとき限りの行為に対して使われる。

また、単にその行為の主体を表すため、必ずしもそれが人間を指すとは限らない。「分解者」「捕食者」は通常、動物である。

行為の主体を一時的、客観的に表すということから、人物像についても、地の部分（＝正体や本性）を言い過ぎない印象があり、昨今、好んで用いられているように思う。

4.2 学習者への指導のポイント

日本で生活する上で必要な、役所の申請書類等の中でよく使われる接尾語であることを念頭におき、学習者の定着をはかりたい。

「医者」と「医師」の違いについては、「医者」は本来的には患者側から見て「医療を施す人」を意味する呼称であり、「医師」は医療という専門的な知識や技能を持つ職業の人を指す。学習者はまず「(お) 医者 (さん)」で習う。「医師」は学習がある程度進んだ段階で、専門のスキルや知見を持つという観点から捉えた、フォーマルな呼称であると説明すればよいと思われる。

4.3 主な語例

二字熟語

医者・演者・縁者・王者・学者・患者・記者・強者・業者・芸者・賢者・作者・使者・死者・従者・勝者・信者・走者・打者・著者・長者・読者・忍者・敗者・筆者・役者

三字以上の複合語

為政者・運転者・永住者・会葬者・開拓者・科学者・学習者・関係者・感染者・管理者・犠牲者・技術者・教育者・協力者・居住者・経営者・経験者・契約者・研究者・原作者・合格者・候補者・高齢者・雇用者・婚約者・参加者・支援者・志願者・指揮者・死傷者・視聴者・失業者・実務者・実力者・失踪者・指導者・支配者・従事者・受益者・受給者・受賞者・〇〇主義者・修験者・受験者・主催者・出席者・使用者・障害者・消費者・初心者・所有者・申請者・生産者・聖職者・責任者・先駆者・創業者・第三者・退職者・代表者・代弁者・担当者・通報者・当事者・当選者・独裁者・内定者・入国者・納税者・配偶者・発見者・発表者・犯罪者・被害者・被疑者・被災者・筆頭者・部外者・不審者・負傷者・変質者・物故者・報告者・訪問者・保菌者・保険者・保護者・歩行者・未成年者・目撃者・有権者・有識者・有力者・要介護者・容疑者・預言者・旅行者・労働者

5. 士〈シ〉と師〈シ〉

5.1 特徴

「士」は、もともとの意味は「おとこ。成年の男子」(『角川新字源』)である。そこから「役人」や「学徳のある者」、「兵士」などと意味が広がり、今日では男女に関わらず、ある資格を持つ人の意味で広く用いられる。「弁護士」とは弁護士資格を持って仕事をする人を指す。それに対し「弁護人」は、刑事事件において、被疑者または被告人の弁護を行う人物である。弁護を行うのが必ずしも弁護士(資格を持つ人物)とは限らないため、「弁護人」と呼んで区別をしている。

一方、「師」は「教え導く人の意」(『古典基礎語辞典』)で、「特に仏道を教え導く僧を指

すようになり、さらに、接尾語的に他の名詞に付いて用いられ、特定の技術に秀でてそれを職とする人をも表すようになった」語である。伝えるべき業や技能を備えた人を指すが、それが先生の場合もあれば、巧みに人を操ったり、欺いたりする人の場合もある。〈士〉と同様、現在、資格を表す名称に多く使われている。

〈士〉も〈師〉も資格の名称に使われる点で共通するが、その場合の使い分けは難しい。これについては小駒勝美（2008年）が、「国家資格の世界では男女に関係なく、広く『士』の字が使われてきている」と述べ、さらに「『師』を使っている資格は旧厚労省に関係のものが多く、〈士〉か〈師〉かは、「お役所の縄張りに左右されているのではないか」と指摘している。〈士〉の付く国家資格には「弁護士」「建築士」「測量士」「気象予報士」などがあり、〈師〉の付く国家資格には「医師」「薬剤師」「調理師」「理容師」などがある。

ちなみに、厚生労働省が管轄する「看護師」は、女性の「看護婦」と男性の「看護士」とを統一した名称であり、法律で定められ、2002年3月から使用されるようになった。同時期に「保健婦」は「保健師」に、「助産婦」は「助産師」に、とそれぞれ変更されている。このように、〈士〉と〈師〉の使い分けは、国家資格に関する名称だけでもさまざまな事情や経緯が絡み、複雑である。

5.2 学習者への指導のポイント

〈士〉も〈師〉も、現在は資格の名称としてよく使われるということを伝えた上で、〈士〉は「もともとは男性を表す語であったが、今は性別に関係なく、資格を持つ人を表すようになりつつある」と説明すればよいだろう。〈師〉は「指導者を意味する語であるが、そこから、特定の技能に優れた人・資格を持つ人をも表すようになった」と言えばよいだろう。

「消防士」や「看護師」など、職業名としてよく使われる語はともかく、日本人でもあまり知らないような資格名は、紹介しても学習者を混乱させるだけになりかねない。また、「師」は隠語として使われる語も多いので、教える語の範囲は十分吟味する必要がある。但し、学習者の属性やニーズによっては「修士」や「マッサージ師」、「介護福祉士」などが身近な語である可能性も十分にある。

〈士〉と〈師〉は、音（＝読み方）も同じであるだけに、混同しやすい。指導の際には、書き誤って学習者に提示することのないよう注意が必要である。

5.3 主な語例

【士〈シ〉】

二字熟語

学士・騎士・棋士・技士・剣士・修士・紳士・戦士・博士・武士・文士・兵士・力士

三字以上の複合語

運転士・栄養士・〇〇会計士・〇〇介助士・〇〇監査士・〇〇鑑定士・機関士・技術士・
気象予報士・技能士・救急救命士・〇〇訓練士・言語聴覚士・建築士・航海士・修道士・
消防士・歯科衛生士・歯科技工士・〇〇書士・〇〇診断士・整備士・税理士・潜水士・操
縦士・測量士・代議士・〇〇調査士・通訳案内士・闘牛士・〇〇判定士・飛行士・〇〇福
祉士・不動産鑑定士・弁護士・弁理士・保育士・〇〇療法士・社会保険労務士

【師〈シ〉】

二字熟語

医師・絵師・技師・教師・講師・宗師・庭師・仏師・牧師・山師・漁師・猟師・業師

三字以上の複合語

いかさま師・占い師・軽業師・看護師・奇術師・祈祷師・教誨師・狂言師・クリーニング
師・講談師・詐欺師・指物師・獣医師・柔道整復師・勝負師・呪術師・助産師・整骨師・
整体師・宣教師・相場師・殺陣師・調教師・調香師・調理師・手品師・手配師・伝道師・
道化師・能楽師・納棺師・俳諧師・花火師・表具師・美容師・腹話術師・振付師・ペテン
師・保健師・魔術師・マッサージ師・漫才師・薬剤師・理髪師・理容師・浪曲師

6. 手〈シュ〉

6.1 特徴

肥爪周二（2017年）によれば、〈手-シュ〉は「本来は『歌い手』『買い手』などの『〜を担当する人』の意の和語であったが、それを漢字表記した『手』を音読みしてできた、和製漢語の接尾辞」である。体の一部である手をもってその人自身を表す比喻表現といえる。手が労力の象徴となり、「担い手・たけた人」の意味で使われるようになった。和製漢語の接尾辞のせいか、訓読みの「〇〇手」に比べると語の数は限られる。

「運転手」「運転士」「運転者」は、語義的には「運転を担う人」「運転の資格を有する人」「運転する人」であるが、職業を表す場合には「正式には、電車・タクシーでは『運転士』、バスでは『運転者』という」（『明鏡国語辞典』）のような運用面での使い分けも存在する。

6.2 学習者への指導のポイント

学習者への導入は、まずは「運転手」であろう。手（hand）を使って人を表すこともあるとして「歌手」「選手」などを一緒に紹介してもよいと思われる。「投手」「捕手」のように野球用語で使われる語については、野球に興味のある学習者に説明するなら有効かもしれない。

6.3 主な語例

二字熟語

歌手・騎手・旗手・技手・助手・選手・漕手・舵手・投手・捕手・名手・妙手・野手

三字以上の複合語

一塁手・右翼手・運転手・外野手・好敵手・左翼手・操舵手・中堅手・内野手・遊撃手

7. 員〈イン〉

7.1 特徴

〈者-シャ〉と並んで、今日よく使われる接尾語である。ある目的のために作られた組織や団体の所属メンバーであることを表す。集団の中の一人と称するので、控えめな表現として、今日、好まれているように思う。二字の語であっても、三字以上であっても、集団名もしくは動詞的な語に接続して所属や任務を示す。「社員」「調査員」がその例である。三字の複合語の場合、行為を表す語に接続するという点では〈者〉と同じだが、〈員〉は「〇〇した人」という一回きりの行為には使えない。目的の下に集った人たち（=要員）なので、継続が前提となる。

「会」に所属する人は「会員」、「団」に所属する人は「団員」であるが、「組」の場合は、暴力団の一員を意味することが多く、一般的な「組」の場合は「組員」は使われない。幼稚園のさくら組に所属するのは、あくまでも「さくら組の園児」、紅白歌合戦の紅組の所属するのは、あくまでも「紅組の歌手」である。

7.2 学習者への指導のポイント

学習者にはメンバーを意味する語として説明すればわかりやすいと思われる。そして、日本人は職業名として、どこのメンバーであるか、何をするメンバーであるかを表す語を使う場合もあると説明すればよいだろう。

7.3 主な語例

二字熟語

委員・駅員・会員・課員・係員・議員・客員・教員・局員・組員・工員・座員・社員・所員・署員・乗員・人員・職員・船員・隊員・団員・店員・党員・部員・役員・要員

三字以上の複合語

運動員・外交員・会社員・学芸員・監視員・教職員・銀行員・組合員・警備員・研究員・工作員・構成員・公務員・裁判員・作業員・指導員・事務員・従業員・乗務員・審査員・

8. おわりに

人物を表す基本の接尾語の大枠をつかみたいと思って整理を試みたが、枠からはみ出す語も多かった。特に二字熟語は、語形や読みによって分類するのが困難であった。二字の熟語を複合語と同列に扱ったことに無理があったように感じる。いずれにせよ、接尾語の選ばれ方にはその時代なりの“当世風”というものがあったり、同音異字との紛らわしさを回避しようという意識が働いたり、まさに語によって「接尾語事情」はさまざまなのだろう。

今回はごく一部の接尾語しか取り上げることができなかったが、〈人-ひと〉〈者-もの〉〈屋-や〉〈主-ぬし〉など和語の接尾語についても興味がある。機会があれば、どのような語がどのような意味で使われるのか調べてみたい。

今回、全体を通じて改めて感じたのは、人を表す語は「他人を表す語」であるということである。接尾語はやはり、広い意味での「仕事」にまつわる語が多いが、仕事を表すからといって自分の職業を伝えるときに使えるかという、話は別である。たとえ絵を描くことや文を書くことを生業としていても、職業欄に自ら「画家」「作家」と書く人は限られるだろう。正真正銘の「教師」であってもそう称することを憚って「教員」を使う人もいう。「医師」や「医者」も、自らは「外科医」「小児科医」などと記す場合が多いのではないか。「農業者」「漁業者」も、農業や漁業に従事する人を遠くから見ている人が使う表現だろう。人物を表すとは本来、他者を評するという行為である。

このように考えると、毎年の確定申告の際、申告用紙の職業欄にはどのように語が並ぶのか気になった。

最後に、言葉拾いの作業の中で出合った語について述べたい。見当をつけた意味と語積とがまるで異なり、その外れぶりに愕然とした。「御天気師」という語である。語釈には「詐欺師の一。偽金などを路上に落としておき、通行人と二人で発見したように見せかけ、配分しようなどと口実を作ってその通行人の金品とすり替えて逃げ去るもの。晴天の日にすることからいう」とあった。「気象予報士」や「お天気屋」とはずいぶん違う。日本語学習者の語彙拡充について思いをめぐらせるだけでなく、自身の語彙拡充活動に励むことも必要であると感じさせられた。

参考文献

- 大野晋 編 『古典基礎語辞典』五版 角川学芸出版, 2012 年
小川環樹他 編『角川新字源』改訂新版 角川書店, 2017 年
沖森卓也・肥爪周二『日本語ライブラリー 漢語』朝倉書店, 2017 年
北原保雄 編『明鏡国語辞典』大修館書店, 2003 年
小駒勝美『漢字は日本語である』新潮社, 2008 年

松村明 監修『デジタル大辞泉』小学館, 2017 年

山下喜代「接辞の造語力と表現性」, 野村雅昭・木村義之『わかりやすい日本語』,
くろしお出版, 2016 年

「あげる」「～てあげる」

三好由希子

1. はじめに

私は「あげる」という言葉が苦手である。「やる、あげる、差し上げる」の「あげる」である。他人に「〇〇してあげます」「〇〇してあげてください」などと言うのに抵抗を感じてしまう。理由は、「あげる」側になった自分がなにか偉そうにしている感じがするからである。この気分は、私だけが感じるものなのか、それとも何か理由のあることなのか。

その理由を知るために、「あげる」がどういう言葉なのかを調べてみようと考えた。

2. 調査の進め方

まず、「あげる」の基本的な意味を調べることから始めた。そのために、一般的な辞書を調べた。

次に、私が抵抗感を感じる「あげる」の使い方について知るために、ビジネスマナー本や敬語の使い方の本、さらに外国人向けの日本語教材を取り上げた。

以下、その調査結果を報告する。

3. 調査結果

3.1 辞書における「あげる」の意味

「あげる」には、「低いところから高い方へ移す」「勢いや価値・程度などを高める」「物事を終わりまでする」などさまざまな意味がある。その中で、私が問題にしているのは、「与える」意味に関するものと、「～てあげる」についてである。そこで、この両者に関する辞書の記述部分だけを次に掲げる。

* 『岩波国語辞典』第7版、岩波書店、2014年

敬語としての用法。④「与える」「やる」のへりくだった言い方。「君にー・げよう」「あとで使いをー・げます」。また、動詞の連用形+「て」に続き、「…てやる」のへりくだった言い方。「書いてー」「読んでー・げましょう」。

* 『新明解国語辞典』第7版、三省堂、2012年

「与える」の丁寧語。「誕生日のお祝いをー」
(補助・下一型) 「やる」の・謙讓(丁寧)語。「教えてー・持ってー・探してー」

* 『例解新国語辞典』第4版、三省堂、1993年

「あたえる」「やる」などを、ていねいに言うときに使うことば。「この時計を君に上げよう」

〈補助下一〉動詞の連用形に、助詞の「て」「で」がついた形につく。「・・・(て)や

る」をていねいに言うときに使うことば。「おじさんが連れて行ってあげよう。」「君が教えてあげなさい。」

* 『現代国語例解辞典』第1版、小学館、1989年

敬うべき人に差し出す。差し上げる。また、現代では、「差し上げる」に比べて、相手への敬意が軽く、対等、または目下の者に与える場合に多く用い、更に、与える、やるの意の丁寧な言い方としても用いる。「友達にあげた本」「子供におやつをあげる」
【補助動詞】(動詞の連用形に、助詞「て(で)」の付いた形に添えて)その動作を他にしてやることの丁寧な表現。「取ってあげる」「呼んであげる」

以上から、動詞「あげる」は、「与える」「やる」をへりくだって言うとき、あるいは、丁寧に言うときの語とされている。つまり、謙譲語、ないし丁寧語として扱われている。また、「～てあげる」も、同じく謙譲語、ないし丁寧語とされている。ただ、どちらかと言うと、「へりくだった言い方」より「丁寧な言い方」とする辞書のほうが多い。

謙譲語であれば、与える相手が自分より目上であることが必要だが、丁寧語ならば、与える相手は目下でもかまわないことになる。つまり、謙譲語ならば「先生に花をあげました」と言えるが、「わが子に花をあげました」とは言えない。丁寧語ならば、「先生に花をあげました」も、「わが子に花をあげました」も言える。

この違いに関して、おもしろい事実がある。上に挙げた『新明解国語辞典』の旧版(第4版、1989年)には、次のような記述がある。

「与える」の・謙譲(丁寧)語。「花を－〔=供える〕」

単に「丁寧語」ではなく、「謙譲語・丁寧語」の両方があるとされている。これを時間的な差異だと考えると、「あげる」は謙譲語的な性格がなくなって、丁寧語的な性格に変化してきたと読み取ることができる。つまり、「あげる」は元々へりくだって使われる語だったが、時代とともに、謙譲的な要素がなくなってきて、単に丁寧な意を表すために使われるようになったと考えられる。

3.2 「植木に水をあげる」の用法

「あげる」が謙譲語か丁寧語かという問題は、「植木に水をあげる」のような、人間以外のものに「あげる」を使うことの可否とかわる。謙譲語であれば、「植木に水をあげる」は不自然であるが、丁寧語とするなら「植木に水をあげる」と言える。前節で述べた「わが子に花をあげました」と同じことである。

この問題について、梶原しげる(2012)には、次のように書かれている。

- ・「植木に水をあげる」「犬にえさをあげる」という表現を(略)年配者では「気になる派」が「気にならない派」を上回るのではないかと推測されます。
- ・「あげる」は謙譲語です。人間が植木や、犬ごときにへりくだってどうする、高めてど

うする、「植木に水をやる」「犬にえさをやる」と、非敬語で話すのが正しい、というような論調がこれまでの敬語本の主流でした。

- ・しかし、文化庁の『国語に関する世論調査』（平成18年）の結果を見ると、若い世代は「あげる」に抵抗を示さない人が多くなっています。むしろ「やる」に「ぞんざいさ」を感じる人たちも少なくありません。（略）感じ方は、時代や、人によって様々です。こうなると「あげる」はもはや謙譲語というより美化語に向かって動き始めているので許容しましょう、というのが「指針」の考え方です。

かつては、「あげる」は謙譲語と認識されていたが、今の若い世代では謙譲語ではなく、美化語になりつつあるという。同様のことが、中山緑朗ほか（2009）でも、

- ・「花に水をあげる」と使うことに抵抗のない人は増える傾向にあり、（略）自分で使わなくてもその言い方を許容する人が多いことになります。
- ・現在では「あげる」を特に謙譲語だと考えるより、通常の語、あるいは若干上品な語として認識する人の方が多いと言えます。

と書かれていた（執筆担当者：坂本恵）。「あげる」を謙譲語ととらえる人が減って、丁寧な語と認識する人が多くなったといい、その結果、「花に水をあげる」を許容する人が増えているという。

3.3 「あげる」と恩恵

次に、補助動詞の用法「～てあげる」について、外国人向けの日本語教材を見てみた。まず、インターカルト日本語学校（2012）では

- ・話し手（または第三者）が誰かに恩恵を与えるという意味の表現です。恩恵が与えられる相手が目上の場合は「～（て）さしあげる」、目下の場合は「～（て）やる」を使います。
- ・話し手が恩恵を与えるというのは、恩着せがましい印象になるので、直接、話し相手に向かって言うのはやめたほうがいいでしょう。「～てあげます」より、謙譲語の「お（ご）～します」を使ったほうがいいでしょう。

とあった。市川保子（2014）では

- ・「～てあげる/～てさしあげる」は「利益・恩恵を与えるときに使います。（例文略）動作に使われる「～てあげる/～てさしあげる」は押しつけがましく聞こえることがあるので注意が必要です。上の人に対しては「～てさしあげる」を用いずに、次のように

別の表現を使うように指導してください。(例文略)

- ・「～てやる」は親しい者どうし、また、上の者が下の者に対して使いますが、ぞんざいに聞こえることが多いので注意が必要です。(例文略)

のように述べられていた。いずれも、「恩恵を与える」という意味があることに注目している。目上の人に向かって、あるいは、相手に直接言うときには、「～てあげる」を使わずに別の表現にした方がよいとしている。

友松悦子ほか(2013)でも同様に、

- ・自分の行為を「Vてあげる」で言うと、自分の親切な心を強調するような感じになってしまうことがある。仕事上の当然の行為には使わない。会話の相手が目上の人の場合もあまり使わない方がいい。

と書かれていた。

「～てあげる」には恩恵を与えるという意味があるという。なぜ「恩恵を与える意」があるのか、いつからそんな意味を持つようになったのかを考えてみた。「あげる」を謙譲語として使っていた時は、相手が目上の人だから、「あげる」側が偉いわけではなく、「ぜひもらってください」「もらってくれたら嬉しいです」という気持ちで「あげて」いた。しかし、今は「あげる」相手は、同じ立場か目下の人である。「これ良いものだからあげるよ」「欲しいでしょ」という気持ちで「あげる」ことになる。そうすると、「あげる」側が相手に対して偉くなる。目上の人に渡していた時にはなかった「恩恵を与える」気持ちが生まれてきたのだろう。

4. まとめ

以上の調査結果を整理すると、次のようなことが言えよう。

- ・「あげる」は本来、謙譲語の意味をもっていたが、今では、謙譲語として使う機会が少なくなっている。今は、通常の語、あるいは若干上品な語として認識する人の方が多い。つまり、「やる」の丁寧な表現として、自分の言葉遣いを上品にするために使われている。
- ・「～てあげる」は「～てやる」の丁寧な言い方である。しかし、「してやる」という行為そのものが、相手になんらかの恩恵を与えるときに使う表現である。それを丁寧に「してあげる」と言ったところで、恩恵を与える意味がなくなるわけでもなく、丁寧に言う分、よけいに嫌味に聞こえることもありうる。いわば、自分の親切な心を強調するような感じになってしまうのである。
- ・このようなことを踏まえて、「あげる」は、仕事上における当然の行為には使えない。会話の相手が目上の人の場合もあまり使わないほうが良いとされ、別の表現を使うよ

う教えられている。つまり、親しい人以外には面と向かって言うてはいけないとされていた。

5. おわりに

私の中では、「あげる」は「やる」の丁寧な言い方だと認識していた。謙譲語という意識はなかった。「あげる」は「やる」の、「～てあげる」は「～てやる」の、それぞれ丁寧な表現というざっくりした感じで認識していた。

「やる」は乱暴な感じがしたし、品がないと思っていた。だから、「やる」がかつてはニュートラルな言葉だと聞いて驚いた。「やる」と言っていたのが、ぞんざいだと思われるようになり、「やる」を丁寧にする言葉として「あげる」が使われるようになった。目上に使われていた「あげる」は、対等、目下に使われるようになり、謙譲語ではなくなってきた。目上にも目下にも使われるようになったことで、美化語のようになったといわれている。

しかし、だからと言って、すべての人が「あげる」に謙譲語的な要素を認めていないわけではないらしい。例えば、昔の表現法を重視したい人や年配の人などの中には、「あげる」を単なる丁寧なことばとすることに抵抗を持つ人がいる。つまり、価値観や年代によって感じ方や使い方が異なることばである。だから、絶対に正しい使い方、単純明快な答えを見つけるのは難しい。

ただし、今回の調査をすることで、私の口から「あげる」が比較的出やすくなったように思う。その後で、その使い方で良かったのか考える。そんなことを繰り返すうちに、私もいつか「あげる」を気軽に楽しく使えるようになるのだろう。

参考文献

- 市川保子 (2014) 『初級日本語文法と教え方のポイント』 スリーイーネットワーク
インターカルト日本語学校 (2012) 『絵で見てわかる 日本語表現文型 初・中級』 ナツメ社
- 梶原しげる (2012) 『すべらない敬語』 第5刷新潮社
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2013) 『新装版こんなときどう使う日本語表現文型辞典』 アルク
- 中山緑朗・飯田晴巳・陳力衛・木村義之・木村一 (2009) 『みんなの日本語事典-言葉の疑問・不思議に答える-』 明治書院

漢字の敷き

竹 腰 純

1. はじめに

平成 23 年 7 月 9 日武庫川女子大学言語文化研究所主催の「ことばのサロン」に参加して以来 6 年が経過した。武庫川学院は平成 31 年に創設から 80 年を迎える。この節目を前に、「武庫川学院 80 年史（学院の歴史を俯瞰し、未来へ飛翔する）」の編纂が始まっている。ホームページには取材チームの記事が掲載され、平成 29 年 3 月 2 日に開催された言語文化研究所公開講座の様子も紹介された。同学院創設の日である昭和 14 年 2 月 25 日に注目してみた。

2. 昭和 14 年 2 月 25 日

○昭和 14 年 2 月 25 日讀賣新聞朝刊の一面トップ(縦書き)

ソ聯、新疆全省制覇へ

援蔣ルート確保・實勢力集中

【厚和廿四日發同盟】ソ聯對蔣援助の源泉をなす新疆省は最近では全く赤色化し督辦盛世才を首班とする省政府は今や完全なるソ聯治下の一赤色政府たるの觀を呈してゐる。即ち一昨年春馬仲英の敗退以來東部新疆に勢力を持つてゐた纏回、ヨウロバウス軍を撃破した政府軍は伊犁(イ)塔城、迪化(ウルチ)哈密(ハミ)を連ねる線を確保し同年八月には馬仲英との間に盛馬停戰協定を締結して阿克蘇以北のいはゆる天山北路を盛に、同南部を馬の勢力範圍として紛争の回避を圖つたが支那事變勃發以來ソ聯は對蔣援助ルートとして續々實勢力を北路方面に集中して迪化にはソ聯新疆派遣軍司令部(哈密に進出したとも傳へらる)を置きアルタイスカヤ狙撃旅團その他直轄機械化部隊を駐屯せしむるにいたつた、(後略)

○同日同紙一面のコラム(縦書き)

風塵録

グアム島問題は、アメリカ政府の一人角力に終つた。あれだけ輿論を沸騰させたのだから議會で否決されても、政府の目的は達せられたといふのかも知れない。▽とかく桁外れを好むヤンキー人種のことだから、無茶をやらぬとはいひかねるが「短刀をつきつけ」られる筈の日本が案外平靜であり、てんから相手にしてゐないので、幾分拍子抜けがあつたかも知れぬ、政府は正氣の沙汰では無かつたが、議會は確かに正氣の沙汰であつた。▽時に箒で星を叩き落とすやうな奇想天外的の珍案を持ち出したがるが、人を人臭しと思はぬ不敵さは、正確なる國際認識を必要とせぬ、暢氣で

豊かな國情にもよる、も一つはユダヤ人の跋扈である。▽昨年中のアメリカ移住者は六萬七千八百九十五人といはれ、前年度より約二萬人増加してゐる、その大部分が歐洲を追はれたユダヤ人であることはいふまでもあるまい、アメリカの政治的變貌が、人種的混淆とユダヤ人の流入によつて決定づけられてゆくことは、今後大いに注目しなければならぬ問題である。

○同日大阪朝日新聞夕刊一面トップ（縦書き）

東と西に防共陣營強化 滿、洪兩國輝く参加 けふ兩首都で正式調印

【新京特電廿四日發】世界平和の樹立と文化の進展に寄與する防共樞軸にハンガリーと時を同じくして参加した滿州國の日、獨、伊防共協定加盟議定書調印式は二十四日新京において張滿洲國國務總理と日、獨、伊三國全權代表との間に嚴肅裡に執り行はれた。この日の調印式場たる國務院大講堂の正面は日、滿、獨、伊の四ヶ國旗をもつて飾られ、午前十時張國務總理は蔡外務局長官、(中略)一方ハンガリー國でもこの日首都ブダペストにおいて防共協定正式参加の調印式が行はれ、こゝに東と西と時を同じうして防共陣營の強化が計られた

○同日同紙一面サイドの記事（縦書き）

敵機の撃墜破五十餘台 蘭州空爆・未曾有の戦果

【同盟〇〇基地二十四日發】二十三日わが陸軍航空部隊の三度敢行せる蘭州大空襲においてわが陸の荒鷲の餌食となつた敵機數は激戦のため多少の正確を缺くとしても五十機を突破せることは確實で、空の勇士の殊勲懾々たるものがある、すなはちわが各爆撃隊と激烈なる空中戦を交へたる敵機はソ聯製E十五型およびE十六型、アメリカ製カーチスホーク、セバスキーなどで、最初は二、三十機の戦闘機群であつたがわが快速攻撃部隊が空中および地上において攻撃した敵機はデー・ペー、セバスキー、ダグラスなど合計七十數機に達し、そのうち撃墜または損傷を與へたもの五十機以上に上り全く敵空軍に潰滅的打撃を與へ陸の荒鷲未曾有の大戦果であつた

○同日同紙一面下段の火野葦平の小説（縦書き）

花と兵隊（50）

桃源にて(二)

私達のトラックはまだ芽の出ない

楊柳の並木道を疾走した。

歩いてみると汗の出る位暖かだ

つたが走るトラックの上では頬に
蓄る風が切るやうに冷たかつた。
暫く田圃に挟まれた道を走つて
みると、左側に一軒の大きな二階
家があつて、トラックが通りか
かると私の名を呼んだ者があつ
た。武装した伍長青柳山平が立つ
てみた。(後略)(後略)

3. 昭和14年

次にもう少し広く昭和14年とはどのような年だったのか主なニュースに注目してみた。

- 1月04日 近衛内閣総辞職 翌日平沼騏一郎内閣成立
- 1月15日 69連勝の横綱双葉山 安芸ノ海に敗れる(縦書き)

あゝ遂に双葉敗る 俊英安藝ノ海の外掛

みごと！金的を討つ 大記録“六十九連勝”で止む

あゝ大剛双葉山遂に敗る！今場所も全勝して七十九連勝絶対間違ひなしと自他共に許してみた横綱双葉山、遂にこの日一即ち七十連勝を獲得せんとした春場所四日目の十五日、出羽ノ海部屋の俊英安藝ノ海の外掛にかゝつて崩れ、彼が狙つたといふ百連勝の夢空しく破れ去つた、大剛破れるの一瞬、あの大鐵傘はグワーンと唸つて一抹の殺氣に似た色彩と饗音を發した、宜なる哉である、だが見よ、敗れた瞬間と雖も双葉山や顔色一つ變へず、いつもの如く口を一文字に結んで悠々とその物凄い殺氣と饗音の間を引き上げて行つた、昭和十一年春場所六日目玉錦に敗れて以來全勝止るを知らない双葉敗れて安藝ノ海の世紀的快勝に熱狂する反面、敗れてなほ大剛の面影を保つた双葉をみた時、名状すべからざる二つの感銘が火華を散らして交錯するのを如何ともし得なかつた(後略)

【昭和14年1月16日讀賣新聞 朝刊】

- 1月24日 南米チリでM7.8の大地震発生(縦書き)

惨死者一萬に上るか チリ一大震災、チリヤン市の被害

【サンチャゴ(チリ) 本社特電廿五日發】

チリ南部の各地から刻々集まる報道は廿四日深夜の激震被害が甚大なることを告げ政府はチリ南部一帯に戒嚴令を布告し地震騒ぎに伴ふ掠奪の防止に努めつゝあり、首都サンチャゴでは飛行機と自動車の總動員を行つて被害者救恤の食糧及び薬品の急送を開始した、被害の最も大きいのはチリヤン市で人口四萬の中一萬は惨死を危ぶまれてゐる、(後略)

【昭和 14 年 1 月 27 日毎日新聞 朝刊】

- 2 月 09 日 ジャン・ギャバン主演の【望郷】が封切られ人気に。
- 3 月 19 日 関門トンネル貫通
- 5 月 11 日 ノモンハンで満州国軍とモンゴル軍が衝突
- 5 月 31 日 女性の郵便屋さん登場（縦書き）

女の郵便屋さん登場 時局に勇しく不足勝ちな労働力補つて

六月早々全国遞信局へ採用通達

男の仕事と相場のきまつてみた郵便配達いいうびんはいの職業戦線しよく せんせんへはじめて女性が時局の脚光を浴びて勇ましく登場する殷賑産業いん さん さん きふしふに吸収されてとかく不足勝ちの戦時下日本の労働力を補ひ且つは事變以來とみに激増した郵便物の集配しふはいに萬全せん ぜんを期さうとするの各遞信局遞信省の新計画として六月早々全国へ正式通牒しき てふされることとなつたのである

【昭和 14 年 5 月 31 日讀賣新聞 朝刊】

- 6 月 03 日 後樂園球場でプロ野球東西對抗戦
- 8 月 19 日 東亜通信博覧会で初めてテレビ一般公開
- 8 月 26 日 米で初の大リーグテレビ中継
- 8 月 28 日 平沼内閣総辞職、陸軍大将阿部信行内閣へ
- 8 月 30 日 山本五十六中将が連合艦隊司令長官に就任
- 9 月 03 日 英国チェンバレン首相 対独戦争を宣言（右横書き）

發勃に遂！ 戦大次二第

る陥に亂動大パツローヨ

くつを段手ゆるあへの決解的和平りば粘りにりば粘でま後最、たつ上ち起に遂は佛英島半ンカルバに更ひ蔽を野の歐中や今は火戦、たつ切を蓋火るす對にツイド、後たしルマび再は土全州歐、てしに年五廿りよ戦大るぐ過、るみてし示を勢のとんせ焼延に
たつなゝとこるれらね委に梁跳のヌ

【昭和 14 年 4 月 9 日讀賣新聞 朝刊】

- 同 03 日コラム（縦書き）

風塵録

イギリスはたうとう宣戦を布告した、ドイツがイギリスは起つまいと考へてみたとすれば大なる誤算であつて全く第一次大戦の轍を踏んだものである。それにイタリヤは中立であるし、これでアメリカが参戦すれば第一次大戦と違ふところはロシアがドイツ側にあることだけだ。▽しかし英佛の軍事的能力が果たしてどれだけのものか、これがまだ疑問である。▽何れにしても戦争はどちらが勝たうが双方の損である。この結果ヨーロッパは何處へ行くか、それにしても思はれることはアメリカがまた大いに儲けるであらうことだ。▽世界が再軍備に乗出した一九三四年から本年六月までの五年半にアメリカの保有金は八十億ドルから百六十億ドルと二倍にな

り、昨今はドル紙幣は貯蔵用のためにヨーロッパにドシ、輸出されてある有様である。▽しかし金持心理はまた別だ。第一次大戦の戦債不拂にこりてあるアメリカが今度もこの前のやうにヨーロッパに戦費を貸すかどうか、即ち軍需品を無制限に賣るかどうかこれは一つの問題であらう。

【昭和 14 年 9 月 4 日 讀賣新聞 朝刊】

- 9 月 30 日 厚生省 結婚十訓発表
- 10 月 18 日 価格等統制令が公布され、物価や賃金が凍結される
- 11 月 08 日 ミュンヘンのナチス党大会で爆弾が爆発し 70 余人が死亡。ヒトラーの暗殺計画失敗
- 11 月 16 日 プロ野球 川上哲治選手が首位打者に
- 11 月 25 日 白米禁止令が公布（縦書き）

白い飯さよなら

家庭も業者も“守れ國策” けふ勅令公布

いよいよ問題の白米禁止令が“節米國策”の脚光を浴びて登場、今廿五日の公布で来る一日から内地一齊に實施され全國民は鳥の鳴かぬ日も缺かさなかつた“白米”にさよならして“國策街道”を眞一文字に驀進することになった、さて乳離れ時代の昔から日に三度々々世話になつた育ての親—“白米”に縁を斷られて七分搗米に乗り替へると一日に五萬俵、枡に量れば二萬石をペロリ平げるといふ巨腹の帝都だけにその節約量もなかなか侮り難く随つて違反防止の取締當局たる警視廳經濟保安課では先づ肝腎の出廻りをよくして市民にひだるい思ひをさせないとともに得意先に媚びて搗精度を胡麻化し易いお米屋さんのカンニングにそなへて嚴重な取締對策を樹て近く管下各署に通達することになった

【昭和 14 年 11 月 26 日 讀賣新聞夕刊】

4. 読み易い新聞に

ここまで昭和 14 年の新聞を見てきたが、非常に読み辛い。その主たる要因は旧字体と旧かな遣い、右横書きである。では一体いつ頃から読み易くなったのだろうか。

昭和 17 年 7 月 17 日 国語審議會在次の決定をした。

字音假名遣は發音通り 難解な書き方を統一

横書きの場合は左からに改正

難解複雑な國語の字音表記法を統一する國語審議會第七回總會は十七日午後一時半から文部省で開き、南會長以下廿三委員、文部省から菊池次官、松尾圖書局長以下出席し慎重協議の結果假名遣を發音通りとするが劃期的な「字音假名道表」を可決、同時に問題の國語横書きも「國語を横書きにする場合には左横書きとする。ただし美術品その他特殊なものについては例外を認める」と決定、近く兩者とも閣議決定の上各官廳を始め一般に

じつ けいこう しょく ごとく せしめ
實行せしめる、國民學校教科書や共栄圏内各民族に日本語を教へる場合もこれによることとなった。

決定した字音假名遣は

▽現代における標準的發音による

▽長音は棒引きではなく「う」を用ひる

を根本原則として整理されたもので、従つて發音通りに假名遣をすれば大體間違ひないこととなるが例へば

イウラクチャウ(有樂町)はユウラクチョウにシモジフテフ(下十條)はシモジユウジョウにカフフ(甲府)はコウフにシヤウグワツ(正月)はシヨウガツにイウジン(友人)はユウジンにグワウオン(轟音)はゴウオンにザフキン(雑巾)はゾウキンにテフテフ(蝶々)はチョウチョウになるといつた具合である(後略)

【昭和17年7月18日讀賣新聞 朝刊】

その結果で駅名も順次書き替へることになった。

驛名も書きかへ

文部省で決定した假名遣に從ひ鐵道省でも全國約四千に上る驛名の振假名を書きかへることとなつたが塗料、人件等の關係で一齊に書きかへを行はず、修繕に迫られたものから漸次書きかへる。これとともにさきに文部省決定の常用漢字により驛名中の常用漢字にない漢字はこれを片假名に直し、また現在右書きとなつてゐる漢字、假名を全部左書きに直し、さらに今度の決定に基いて現在の假名を書きかへるわけで、從來から種々論評のあつた驛名の書き方がここに統一されることとなつた。

【昭和14年11月26日讀賣新聞 夕刊】

昭和21年4月23日朝日新聞朝刊(見出し右横書き、本文縦書き)で常用漢字について書いている。

用採に富豊は字略

“なか”どん殆も名の木や花

易しく、美しく、簡素な國語をこの「千二百九十五字」で築き上げていかう、常用漢字“千二百九十五字”が國語審議會主査委員會でこのほど最後の決定を見た、本月二十七日の同會總會で本極りとなれば早速文部省にこれを答申し文部省が教育的見地から今一應の檢討を加へたうへいよいよ實行の段取へ進むこととなるが漢字制限に関する文部省および國語審議會の仕事はこれで終つたわけではない、數の制限は果したが今後はこれらの漢字をいかに讀みいかに駆使してゆくか、かくて生れ出づるやさしい國語をいかに深い味のある美しい國語に育て上げてゆくか一等重い使命がある、これはまた國民一般に課せられた出題だ、この千二百九十五字の漢字が原則として全部「かな」でゆかう、といふのだからむづかしい名詞はもちろん一切の代名詞、接統詞、副詞などは悉く「かな」となり、一方独、号、余、沢

といった略字が時代の寵児となる、どうしてもこれ以外の漢字を使ひたい時はどうする・・・まづむづかしい字はやさしい字に言廻しをとりかへて書く、隣保組織といはないで隣組とすればいい、尚どうしても“封鎖漢字”を使はねばならぬ時はかなをふることとし「ほうそう」など幾重にも意味がとれるかな書きには「疱瘡」とか「法曹」とか逆に「ふり漢字」あるひはカツコ内の割漢字をすればいいことなる、(中略)

なほ亞米利加、佛蘭西、紐育などの外國名はみんなアメリカ、フランス、ニューヨークとかな一本でゆくが、中華民國だけはそのままである

その後この 1,295 字は 1,850 字に修正され、昭和 21 年 11 月 5 日国語審議会が答申、同年 11 月 16 日に内閣が「当用漢字表」を告示することになる。日本語の平易化のため、新たに定めた 1,850 字以外は使用すべきではないとの告示である。

この「当用漢字表」の告示と同時に、「現代かなづかい」も告示された。それを受けて、早速、朝日新聞は昭和 21 年 11 月 21 日の朝刊一面で新かなづかいの採用を発表する。

おことわり

本日の紙面から政府決定の『新かなづかい』によることにしました、実施早々のこととて、統一をかけた不体裁な紙面となる場合もあります、読者諸氏の御了承と御協力をしたいと思います。

続いて、朝日新聞は昭和 22 年 1 月 1 日朝刊 1 面に左横書きを採用することを発表した。

おことわり

本社はさきに当用漢字、新かなづかいを採用し、紙面の平明化をはかつてきましたが、新春の紙面から「左横書」を採用することにしました。

また、毎日新聞は昭和 21 年 11 月 30 日の朝刊一面で新かなづかいと左横書きの採用を発表した。

当用漢字と新かなづかい 本紙・全面的に採用

略字や左横書きも実施・振りがなは全廃

読みやすい、わかりやすい紙面を作ることは、前前から当社が念願として来たところでもあります。さきに「当用漢字」と「新かなづかい」が制定されましたのを機会に、漸次これを使用してまいりましたのも、この意味に他なりません。その後いろいろの準備も整いましたので、十二月一日の紙面から、これを全面的に採用すると同時に、「略字體」と「左横書き」を併用し、この際「振りがな」を廃止することに致しました。もとより漢字の制限だけで、文章の平明を期することは出来ませんが、この点については、さらに一層の努力をつづけてまいります。なお当分の間は、多少の不体裁

をあらわすこともあると思われませんが、その点は讀者諸氏の御了解をお願いしたいと存じます。

このように、昭和 17 年から昭和 22 年にかけて新聞の表記は大きく変わった。昭和 17 年から昭和 22 年までの間に何があったのか、またその変革は順調だったのだろうか。

5. 漢字廃止論

漢字廃止論は、江戸時代末期に前島密が徳川慶喜に提言して以降、度々議論されていたが、第二次世界大戦での敗戦後からは更に強く主張されるようになった。連合国軍最高司令部 (GHQ) の最高司令官ダグラス・マッカーサーは、昭和 20 年 10 月に「五大改革」と呼ばれる指令を、日本政府に対して命じた。その中に、学校教育の自由化がある。日本語は漢字が多いために覚えるのが難しく、識字率が上がりにくいために民主化を遅らせているという偏見からスタートしている。

このような情勢の中で、昭和 20 年 11 月 12 日の読売報知新聞の社説で、次のように述べられた。

漢字を廃止せよ

新日本建設のための文化政策はいろいろと提示されてある。民主主義の積極的建設を標榜するといふ自由、社会、共産三主要政黨の政策もほゞ明らかとなつたか、またはなりつゝある。敗戦とその後に續く危機が深くかつ大きいだけに、行はるべき改革また徹底的に餘すところがあつてはならぬ。上は天皇制から政治經濟、衣食住萬般の問題、下は便所の在り方まで

鋭いメスの批判と冷嚴な科學的反省の俎上に上せられねばならぬ。だから問題と政策が複雑多岐に互るのは當然であるが、こゝに民主主義の發達と密接に結びついた問題で、いまだに忘れられてゐる重要なものがある。それは國字問題だ。

民主主義の運営を期するには一定の知能の發達を必要とする。その運営をさらに圓滑化するためには一層大きく知識と知能とを高めねばならぬ。文明社会において知識と知能とを高める最も廣汎かつ基礎的な直接手段は言葉と文字である。階級的な敬語その他の封建的傳習の色濃い日本の國語が大いに民主化されねばならぬのはいふまでもない。しかし、日本にあつては言葉記載の手段たる文字改革の必要は特に大きく、政治的な意味さへある。現在日本の常用文字たる漢字がいかにわが國民の知能發達を阻害してゐるかには無数の例證がある。特に日本の軍國主義と反動主義とはこの知能阻害作用を巧みに利用した。八紘一字などといふわけの解らぬ文字と言葉で日本人の批判能力は完全に封殺されてしまつた。

或る調査によれば、漢字假名交り文でする國民學校六年間の課程は、點字使用の盲人教育において、僅か三年乃至四年の間に完了されうるといふ。日本の兒童は國民學校、中學校を通じて文字の學習に精力の大半を消耗する。そのため知識そのものを廣

めかつ知能を高めるための眞實の批判的教育は閑却される。歐米先進國では文字が簡單で、その學習の必要は殆どない。一切の時間と精力が知識そのものゝ獲得に向けられる。この相違の實際の結果はいかに大きいことか。われわれ自身ですら忘却、非能率その他漢字から受ける不便のどんなに大きいかをくどくどと述べる必要はあるまい。リノタイプの使用によれば新聞紙の製作も現在の半數の人員で行はれうる。

隣邦支那の封建時代に完成しただけに漢字には封建的な特徴が濃厚だ。徳川封建時代には漢字漢文が常用された。しかし、明治維新の民主的改革期には早くも漢字に対する批判が擡頭した。その結果漢字假名文が発達し、簡易化され、現にわれわれの見る如き文章が成長して來た。一方假名専用、ローマ字論等漢字廢止の運動が発達した。興味ある現象はこれらの運動が必ず政治的民主主義運動の勃興に伴つて隆盛を來してゐることである。明治初年の民権運動にも大正、昭和の民主主義運動の勃興にもそれが見られた。しかし、その度毎に封建主義と軍國主義とはこれを抑壓してしまつた。かつてレーニンは『ローマ字の採用は東洋民族の一革命であり、民主主義革命の一構成分子である』といふ意味を述べたといふことである。トルコのケマル・パシヤが前大戦の敗北後行はれた民主主義革命でローマ字採用を斷行したことは餘りにも有名だ。民主主義と文字改革とは内的な深い關係を持ち、漢字廢止運動は民主主義運動の一翼であるといへる

わが國にはいま第三回目の、そして最後の勝利を収むべき民主主義運動が澎湃として捲き起りつゝある。外壓に基く上からの民主主義革命は漸く下から燃え上る民主主義運動と結びつかんとしつつある。一切の封建的傳統と障害物はかなぐり捨てねばならぬ。いまこそ封建的な漢字に対しても再批判を下すべき時が來たのである。漢字を廢止するとき、われわれの腦中に存在する封建意識の掃蕩が促進され、あてきばきしたアメリカ式能率にはじめて追隨しうるのである。文化國家の建設も民主政治の確立も漢字の廢止と簡単な音標文字(ローマ字)の採用に基く國民知的水準の昂揚によつて促進されねばならぬ。街に氾濫する生かじりの英語學習よりもこの方がはるかに切實な問題である。民主主義的各黨各派の一考すべき問題ではあるまいか。

翌昭和 21 年 3 月にはアメリカ教育使節団が「日本人は漢字の暗記が生徒に過重の負担をかけている」として漢字、ひらがな、カタカナを廢止し、ローマ字のみにすることを提案した。これを受け日本ローマ字會とカナモジカイが共同声明を發表した。

漢字の全廢へ カナ、ローマ字會共同聲明

カナ、ローマ字両論の間には、ややもすれば対立と誤解があつたが、このほど日本ローマ字會とカナモジ會では協力して日本式ローマ字及び横書片假名を普及し、漢字全廢に進むことに話がつき六月五日運動方向についての聲明を新橋藏前工業會館で發表する

共同聲明(要旨)(一)現在の書き言葉はカナモジ會が主張して來たやうに横書きに改め漢字を次第にへらして、つひには横書き片假名ばかりにする(二)ローマ字は最も合理的で簡単な日

本式綴方に統一しこれを教育と実用との両方面に推し進める(三)カナ、ローマ字普及により現実の文化を妨げず、すみやかに漢字全廃をはかる(四)この方針に従ひカナモジ會は現在の書き方に性質の改善を加へて行く方面を、またローマ字會は分量的に現在の書き方の領分をローマ字書きにふりかへて行く方面を分擔しながら國字問題全体の総合的解決に協力し合ふ

【昭和 21 年 5 月 28 日朝日新聞】

6. 当用漢字

前述したとおり敗戦後の混乱期に漢字を廃止せよとの強硬論が高まったが、国語審議会は当面漢字の使用を制限する目的で昭和 21 年 11 月 5 日漢字表を答申し、わずか 11 日後の 11 月 16 日に内閣が「当用漢字表」を告示した。これには反対意見も多く、混乱がしばらく続いたようである。

昭和 22 年 10 月 20 日朝日新聞「天声人語」は反対論者を攻撃している。

天声人語

当用漢字や現代かなづかいに氣乗りのしない作家、評論家の多くはこんどの別表や音訓表を見て「またか」と顔をしかめているに違いない▼自然の樹木とかり込まれた街路樹や庭木とはどちらがより美しいか、それは見る人によつて異なる。漢字制限や新かなづかいは、いわばかり込まれた街路樹が庭木なのだ▼自然の一枝をも愛する者から見れば、へんなかつこうにされた樹木は殺風景で見るにたえない。いわんや咲くべき花も咲かず、実るべき果実も実らざるにおいておや▼辰野隆博士は当用漢字など大反対だそうで、なるだけ難かしい漢字を使つて中華女性に恋文を書くべく、昨年来漢和大辞典を愛読しているとある。▼いかさま辰野博士らしい表現だが、さいわいにして恋文の返事が來たら、これが博士にスラム読めるかどうかは怪しい。恋愛にいつも漢和辞典が要となると不自由なことだ▼文筆家の多くが当用漢字、新かなづかいに難くせをつけたがる主たる理由の一つは、国語審議會在山本有三氏一人きりで、他の作家たちをボイコットしている点にある。これは文部省がよろしくない。▼当用漢字にも新かなづかいにも欠点はいくらもある。それは今後も機会あるごとに修正されるべきであり、影響力の大きい作家、評論家の意見をこれまでのように等閑視すべきでないことはもちろんである。▼國語改革は文化國家の將來にとつて最大の問題であり、文筆家の協力なしにはどうにもならないのだ。

讀賣新聞は昭和 23 年 4 月 10 日と同 18 日に一面の社告で、なお古い漢字に執着を持って使いつ讀みたがる人が多いと歎き「ふりがなをどうするか」と読者の意見を求めている。

読者の意見を求む ふりがなをどうするか

世論に基く新聞活字の改善へ

読みよい新聞—わかり易い新聞を作るためには読む人の目にふれる新聞活字わけても

活字のふりがなをとするかという問題^{だい}がある現在使われている固有名詞や政治、経済、法律^{りつ}等の専門^{せん}語官廳の常用後、学術^{じゆつ}用語などにまだまだむずかしい言葉が沢山ある、又世間にはなお古い漢字^{かん}に執着をもつてこれを使いかつ読みたがる人々も多い、本社はこのような点を考えて現在もふりがな付の活字を捨てず広く読者の利便^{べん}を考慮している、然しふりがな付活字を用いると新聞紙面は奇麗^{きれい}にならず記事の収容量もすこし少なくなる、そこで本社は読者本位に考えて広く一般^{はん}読者からふりがなをどうするかについて意見^いを求めその結果によつて今後どういふ活字を使うかの方針を決めようと思う、日ごろ新聞を読まれて氣付かれた読者の意見は本社の方針決定に重要な参考になると信ずる、なお外國語の新聞紙面への表現と活字の大きさの問題^{だい}、横組をもつと多くするかどうかについてもこの際あわせて広く御意見を承りたい

読者の意見を求める事項

- ① ふりがなを全廃するか
- ② 漢字にはすべてふりがなをつけるか
- ③ 比較的むずかしい文字を選んでふりがなをつけるか
- ④ 特殊の文字のみにふりがなをつけるか
(以上についてその理由と意見)
- ⑤ 漢字制限について新聞への要求
- ⑥ 外國語の取り扱いについて
 - (A) 外國語そのままを仮名書きで用いるか
 - (B) 原文のまま用いるようにするか
 - (C) 外國語を用いるときは日本語の意味を付けるか
 - (D) 外國語は出来るだけ使うのがいいか、使わぬのがいいか
- ⑦ 現在の新聞活字は小さ過ぎるからこれを大きくせよとの意見がある、これをどう思うか
- ⑧ 横組みをさらに多く採用すべきか
- ⑨ その他の御意見

上記の結果は5月31日朝刊一面に掲載された。

ふりがな新活字採用

読者の世論に基く 親み易く読み易い紙面へ

本社はこゝに全読者の熱烈なる御声援^{えん}に深く感謝をさしげるとともにその意見を尊重し各層^{そう}の読者に最も親しみ易く一人の読者に対しても読み難い新聞をおくりたくないという考えからつぎの通り紙面の刷新^{しんしん}を志すこととした

「ふりがなの存廃」について

小学校六年生までの教科書に用いてある八百八十一字の教育漢字表以外の活字に原則としてふりがなをつける

「漢字制限」について

現状のまゝでよいという論が多かったが本社は活字の略字化（字画の減少）を徹底させると共に難しい文字は従来通り漸次これを廃止するようにつとめる（中略）なお現在のふりがな活字を全部新方針によつて改めるには今後四、五ヶ月を要する予定であるが本社はこれと共に戦災の打撃からなお完全に立ち直っていない工場設備を急速に改善、印刷の鮮明化をはかり、読者の要望にこたえることとした。

混乱はその後も継続し、昭和 25 年 6 月 9 日読売新聞の読者投書欄に下記の投書があり、一般の市民生活まで影響を受けている様子が目に浮かぶ。

気流

左横書き

日本文字の横書きは昭和十七年中文部省国語審議会で決定、それによると“国語を横書にする場合は左横書とする、ただし美術品等特殊のものは例外を認める”とあつた。当時は一般に実行され、二度読みの苦勞がなくなつたと喜んでいたところいつの間にか指導的機関がこれを無視している事は残念だ。例を通貨にとると百円、十円、五円、一円の紙幣は「日本銀行券」「日本銀行」その他の文字は右文字五十銭は左文字、硬貨は終戦後は右文字、後は左文字、郵便局の消印スタンプ等は左文字、右文字勝手に作っている、全く煩雑に堪えぬ、経費、手数かゝるものでないから何とか統一願いたい。（新潟県・公吏）

7. 交ぜ書き語

交ぜ書きという珍現象を生んだのは昭和 21 年敗戦直後に公布された「当用漢字表」が元凶である。日本語の平易化のためと称し、当時の内閣が新たに定めた 1850 字の当用漢字なるもの以外は使用すべきではないと告示したために、日本の教育界・出版界を始め一般の人々までこれに従わざるを得なくなった。その後常用漢字表となり使用できる漢字がプラスされたが未だに表外字は多く交ぜ書きは続いている。交ぜ書きが如何に分かり辛いものであるかは、語り尽くされているが、ここでは「悪魔の辞典」風に並べてみた。

【愛きょう】京都を愛すること

【愛嬌】①にこやかでかわいいこと②あいそ

【えい児】良い子

【嬰兒】生まれてまもない子供

【えん曲】演歌を作曲すること。また、

【婉曲】遠まわし

その曲

【おう歌】応援歌の略

【謳歌】声をそろえてほめたたえること

【改しゅん】反省してシュンとなること

【改悛】あやまちを悔いて改めること

- 【かく乱】 不良学生が着る制服
- 【かん腸】 腸の働きが良いこと
- 【帰すう】 真っ直ぐ帰宅すること
- 【欺まん】 饅頭のまがい物
- 【狭あい】 博愛の反対
- 【ぐう話】 眠気を催す話
- 【苦もん】 学習塾
- 【警ら】 警察官の複数形
- 【けん引】 犬の散歩
- 【研さん】 研ナオコさん
- 【けん怠】 さぼり癖のある犬
- 【こま犬】 やんちゃな犬
- 【混とん】 あいびき
- 【困ぱい】 麻雀で捨て牌に困ること
- 【さい疑】 妻の不倫を疑うこと
- 【さい銭】 妻のへそくり
- 【さい帯血】 妻が血の滲むような思いで
購入した帯
- 【しゅう雨】 大気汚染された地域で降る
少し臭う雨
- 【じょう舌】 高級なタン
- 【常とう】 常夜灯の略
- 【信びょう】 信ずる人物に一票を投じる
こと
- 【すう勢】 肺活量
- 【ぜい弱】 重い風邪の症状
- 【ぜい沢】 ぜい肉が沢山つくこと
- 【せん越】 一線を越えること
- 【せん光】 白檀の香り
- 【だ捕】 下手糞なキャッチャー
- 【だん家】 暖かい家
- 【ちょう落】 バンジージャンプ
- 【でん粉】 手入れの悪い調味料入れ
- 【攪乱】 かき乱れ、混乱させること
- 【浣腸】 肛門から直腸に薬剤を注入すること
- 【帰趨】 物事が行き着くこと(ところ)
- 【欺瞞】 うそをついてだますこと
- 【狭隘】 狭くなるしいこと
- 【寓話】 教訓的なたとえ話
- 【苦悶】 苦しみもだえること
- 【警邏】 バトロール
- 【牽引】 引っばること
- 【研鑽】 努力して研究を深めること
- 【倦怠】 ①飽きて嫌になること②体が疲れてだ
るいこと
- 【狛犬】 神社に置くシシに似た獣の一对の像
- 【混沌】 物事(の区別)がはっきりしないようす
- 【困憊】 疲れきること
- 【猜疑】 ねたみ疑うこと
- 【賽銭】 参詣したときに、神仏に供えるお金
- 【臍帯血】 へその緒に含まれる血液
- 【驟雨】 にわか雨、夕立
- 【饒舌】 おしゃべり
- 【常套】 いつもの決まったやり方
- 【信憑】 信用すること
- 【趨勢】 物事のなりゆき・傾向。
- 【脆弱】 もろくて弱いこと
- 【贅沢】 分不相応な消費や行ない
- 【僭越】 身の程をわきまえず、出すぎたことを
する様子
- 【閃光】 瞬間的にきらめく光
- 【拿捕】 (敵国や外国の船を) 捕らえること
- 【檀家】 その寺に墓地をもち、寺を援助する家
- 【凋落】 ①植物が生気をなくすこと②おちぶ
れること③衰えること
- 【澱粉】 栄養素の一

関西地方で言う

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 【どう喝】堂々と「喝」を入れること | 【恫喝】おどすこと |
| 【投かん】空き缶をゴミ箱に投げ入れること | 【投函】ポストに入れること |
| 【同せい】苗字が同じ人 | 【同棲】(正式に結婚していない男女の)同居 |
| 【棟りょう】腕の良い大工さん | 【棟梁】①大工のかしら②国や団体の統率者 |
| 【ねつ造】ヘルペス | 【捏造】でっち上げること |
| 【ばい菌】不衛生なお店の食べ放題 | 【黴菌】(有害な)細菌の俗称 |
| 【抜てき】ライバルチームから選手を引き抜くこと | 【抜擢】大勢の中から引きぬいて重く使うこと |
| 【ばん歌】銀行員が歌う歌 | 【挽歌】人の死をいたみ悲しむ歌 |
| 【ばん回】火の用心 | 【挽回】失ったものを取り戻すこと |
| 【範ちゅう】品行方正なネズミ | 【範疇】分類の基本的なわく |
| 【ひょう変】若い女性が突然関西のおばちゃんになること | 【豹変】突然変わること |
| 【ひん死】馬が死ぬこと | 【瀕死】今にも死にそうな状態 |
| 【ふ頭】ふと頭に過ること | 【埠頭】港で、船を横付けする所 |
| 【明せき】窓際の明るい席 | 【明晰】明らかではっきりしていること |
| 【もん絶】門の前で絶命すること | 【悶絶】もだえ苦しんで気絶すること |
| 【らく印】シャチハタ | 【烙印】焼き印 |
| 【落いん】印鑑を落とすこと | 【落胤】昔、身分の高い人が密かに生ませた子 |
| 【漏えい】インフルエンザA型を見逃すこと | 【漏洩】秘密などが漏れる(漏らす)こと |
| 【老かい】老人性皮膚病 | 【老獯】経験を積んで悪賢いこと |
| 【わい曲】Y字バランスが崩れること | 【歪曲】事実を(故意に)ゆがめること |

8. まとめ

昨今電車の中で新聞を読んでいる人をほとんど見かけない。少し前は通勤時間帯の主役は新聞を読むサラリーマンであった。新聞だけではなく、週刊誌、書籍の販売数減少も顕著である。大学生協は平成30年2月26日に、大学生の読書時間が減少しており、一日の読書時間が0分の割合が53.1%にのぼると発表した。活字離れは想像以上のスピードで進行している。では漢字離れはどうか。平成12年度157万人だった漢字検定受験者数は平成28年度には204万人となっている。しかし、平成20年度の289万人を最高に、28年度まで減少が続いている。年末に発表される「今年の漢字」への注目度は高いが、近年応募者数は減っている傾向が見られるようだ。活字離れほどではないが、漢字離れも進行しているのではないか。

その原因は文字を手で書かなくなったことと考える。最近は音声入力の精度も格段に進歩し、今後文字は読み書きするものから読むだけのものになるのであろう。読めない字があっても特殊なペンでタッチをしたり、画面をドラッグしたりすると読みや意味を教えてくれる時代もそう遠くはないように思う。漢字を覚えなくともよい時代の到来である。技術の進歩が、学習に時間がかかりすぎると漢字を悪者にしてきた漢字廃止論者の論拠を奪うことになった。

とはいえ、平成 26 年度文化庁の「国語に関する世論調査」で、文字の手書きに関するアンケート「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきであると思うか」との問いに、91.5%の人が「大切にすべきと思う」と回答しているのにはホッとしました。

平成 30 年は「今年の漢字」に応募し、漢字検定にチャレンジすることを決心して、このレポートの締めとする。

開講場所：武庫川女子大学言語文化研究所 研究所棟 I-609

開講日時：

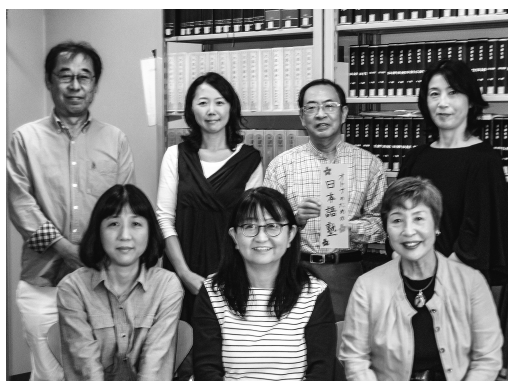
第1回 2017年5月20日(土)
10時30分～12時30分



第2回 2017年6月17日(土)
10時30分～12時30分



第3回 2017年10月7日(土)
10時30分～12時30分



第4回 2017年12月23日(土)
10時30分～12時30分



第5回 2018年2月3日(土)
10時30分～12時30分



企画・開催 佐竹秀雄（本研究所研究員） 岸本千秋（本研究所助手）
レポート指導 佐竹秀雄 岸本千秋
開催補助 森継真由（本学卒業生）

オトナのための日本語塾
レポート集 2017

刊行 2018年3月3日
編集 佐竹秀雄 岸本千秋
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
電話 0798(45)3536
FAX 0798(45)3574
Mail ilc@mukogawa-u.ac.jp
URL <http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/>
発行 武庫川女子大学言語文化研究所
印刷 大和出版印刷株式会社
